

3・11以前とそれ以後の「記憶と記録」を募集します。

あなたが、この災害で体験したことや、伝えたいこと、見たこと、聞いたこと、感じたことを自由に書いてください。表現・書式・体裁・数量は問いません。住民の本当の声として、2月11日の会議とインターネットで発表・記録します。

●受付箱 南相馬市役所 1階までお持ちください。

E-mail/Fax受付 record@minamisoma-fukushima.jp / Fax 03-5730-6080 (東京事務局)

個人情報を無許可で公開することはありません。また、住所・電話番号・E-mailは公開いたしません。どなたからいただいた情報かわかるよう、太枠の事項を記入ください。匿名の場合、公開情報として扱えない場合があります。

氏名	年齢	住所	事務局からの連絡のため。
男 <input type="radio"/> 女 <input checked="" type="radio"/> 41			
2月11日の会議の参加について		電話番号	
参加します <input type="checkbox"/> 参加しません <input checked="" type="checkbox"/>		E-mail	

南相馬市高倉へ引越しをして5年になります。中古物件を購入したのですが、まさか原子力発電所から30km圏内が危険になるとは、思いもよっていませんでした。一生をこの土地で暮らそうと決め、数km先にはショッピングモールもあり、かといって馬鹿らしい場所でもなく、夜はしーんと静まり返って、夏は田舎のまぶさ過ぎせる平和な所。

こんないい所へ子供2人と生活していた私にとって原発災害は過酷な運命となりました。東家は飯館村、距離はあると聞いて、20km以内の避難所と同時に、夜の八木沢山を車で真暗な東家へ向かいました。高倉の家は震災の影響もなく、電気・ガス・水道が使用できたのに、飯館村では車に乗ってラジオの情報を聞くしかありませんでした。電気が復旧した翌日には原発が水素爆発したと聞き、ガソリン不足と次に店閉まりする中をうろろと歩くしかありませんでした。テレビでは「子供は避難させなさい」という報道で、ガソリンが手に入ったのが3月19日でした。過ぎる情報・ガソリンを運んでくれないタンクローリー、そして、何故又葉君のように速やかな集団避難所とならなかったのか？全てが「安全神話」の情報だった事。

4月の福島第一原発の「桜の花見バスツアー」に参加申込をして、楽しみに待っていた私です。「夕陽」を見に行き、敷地内で遊んでいたのです。たとえ「大地震のせいだ」と言われても、私達の頭上には間違いたく放射能が降りそそいでいるのです。二度と繰返してはならない事!!

このような運命となった今でも、やはり県外避難所をせよと福島で、南相馬市ではきていく私たちです。もうすぐ小学校も再開します。

このチラシやウェブサイトを書いてある情報を、原発災害などで避難して今は近隣にいない方にもお伝え下さい。

www.minamisoma-fukushima.jp

南相馬世界会議2012実行委員会 事務局 〒975-0005 福島県南相馬市原町区二見町1丁目6番地
 受付窓口: record@minamisoma-fukushima.jp 電話: 03-5730-6080 (東京事務局)